

4

CAS 番号：80214-83-1

物質名：ロキシスロマイシン

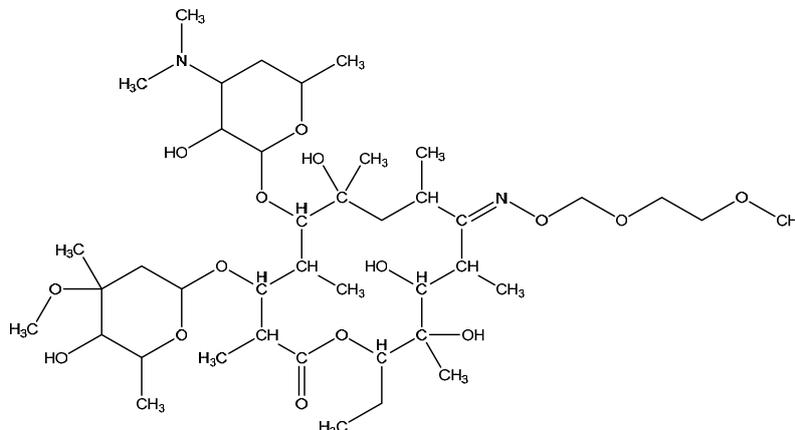
化審法官報公示整理番号：

化管法政令番号：

分子式：C<sub>41</sub>H<sub>76</sub>N<sub>2</sub>O<sub>15</sub>

構造式：

分子量：837.05



### 1. 物質に関する基本的事項

本物質は水にほとんど溶けない物質であり、分配係数（1-オクタノール/水）（log Kow）は2.75（計算値）、蒸気圧は $1.04 \times 10^{-29}$  mmHg（ $= 1.39 \times 10^{-27}$  Pa）（25°C、計算値）である。

本物質は、14員環マクロライド系抗生物質であり、適用菌種はブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌などとされている。また、平成28年度における製造・輸入数量は7tである。

### 2. 曝露評価

本物質は化学物質排出把握管理促進法（化管法）第一種指定化学物質ではないため、排出量及び移動量は得られなかった。Mackay-Type Level III Fugacity Modelにより媒体別分配割合の予測を行った結果、大気、水域、土壌に等量排出された場合、土壌に分配される割合が多かった。

水生生物に対する曝露を示す予測環境中濃度（PEC）は、公共用水域の淡水域では0.047 µg/L程度、同海水域では概ね0.0073 µg/Lとなった。

### 3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における72時間 IC<sub>50</sub> 47 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における48時間 EC<sub>50</sub> 74,300 µg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の96時間 LC<sub>50</sub> 288,300 µg/L、その他の生物ではイボウキクサ *Lemna gibba* の生長阻害における7日間 EC<sub>50</sub> 1,000 µg/L 超が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数100を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）0.47 µg/L が得られた。

慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における72時間 NOEC 10 µg/L、その他の生物ではイボウキクサ *L. gibba* の生長阻害における7日間 NOEC 1,000 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数100を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 0.1 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類の慢性毒性値から得られた 0.1 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域で0.5、海水域では0.07となるため、本物質については情報収集に努める必要がある。排出状況等を踏まえた環境中濃度及び有害性に関する情報の充実について検討する必要があると考えられる。

有害性評価 (PNEC の根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/PNEC 比	総合的な判定
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類 緑藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	0.1	淡水	0.047	0.5	▲
					海水	0.0073	0.07	

#### 4. 結論

	結論	判定
生態リスク	更なる関連情報の収集に努める必要がある。	▲

[リスクの判定] ○：現時点では更なる作業の必要性は低い、▲：更なる関連情報の収集に努める必要がある、(▲)：既存の関連情報を総合的に勘案して判断すると更なる関連情報の収集に努める必要がある、■：詳細な評価を行う候補、(■)：既存の関連情報を総合的に勘案して判断すると詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない。